

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立玄界小学校 教諭 鬼塚 正博

1. 単元名 私たちの未来のために…～My SDGs をつくろう～

2. 単元の目標

- SDGs について知り、よりよい学級や自分になるための目標を設定することができる。
(知識・技能)
- 自分の学校や学級、自分自身の課題をもとに、よりよくするための SDGs の目標を考えたり、まとめたものを発表したりすることができる。
(思考・判断・表現)
- 学校や学級、自分自身をよりよくするための SDGs の目標を考え、実践することができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、2015年9月に国連サミットで採択された「SDGs」を通して、自分の住んでいる学校や学級を見つめなおし、よりよく過ごすためや自分の成長のために、それぞれの課題解決に向けた SDGs の目標やターゲットを設定していく。SDGs を自分の身近な学校や学級の目標の1つとして設定し、自分たちの言葉に置き換えて決定することで、高学年として自分たちの力でよりよい学校づくり、学級づくりに対しての意欲や意識を高めることができる教材である。

そして、これらの活動を通して、最後は自分自身に立ち返り、今の自分の課題から SDGs の目標を決め、ターゲットを考えることで、目標を達成するために、継続的に努力し続けることができる教材である。

この学習を通して、SDGs という世界的目標から自己の生き方について考えることができ、意義深い教材であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の子どもたちは、これまでの学級活動などで、学級や1年間、1学期の目標など、様々な場面でより良い自分に成長するための目標を設定してきた。節目ごとに自分で決めた目標に対して、振り返りは行ってきたが、日常生活の中で、常に自分で決めた目標を意識して過ごすまでには至っていない子が多くいる。また、現在の社会情勢から、様々なことが制限されており、高学年としての意識が薄かったり成長していこうとする意欲が低かったり、5年生として、6年生とともに自ら進んでより良い学校へしていこうとする意識や姿はあまり見られない。

これまでの総合的な学習の時間において、自分たちで課題を見つけ、課題解決のための情報収集、整理・分析をしたり、自分なりの方法でまとめ、発表したりするなどの学習方法は身に付けている。しかし、これらの活動を通して、自己の生き方を考えるまでには至っていない。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、SDGs に興味や関心をもつことができるよう、SDGs について詳しい方を GT として招聘し、SDGs について学ぶ場を設定する。事前に GT には、子どもたちに分かる言

葉で簡単に説明していただくように依頼しておく。その後、目標ごとに資料や参考になる HP 名を書いたヒントカードなどを用意し、簡単に調べたりまとめたりすることができるようにするなど、SDGs に対する興味や関心が徐々に高まるようにする。

次に、学級についての課題から SDGs の目標を設定していく。課題を明確にするために、学級の様子に一番詳しい学級担任を GT として招聘し、本学級についての話を聞く場を設定する。その後、明確になった学級の課題をもとに、SDGs の目標を決め、学級の課題に合った言葉に直し、表現物を作成し発表していく。発表の際は、再度 GT（学級担任）を招聘し自分たちが設定した「5-1 SDGs」を聞いてもらうことで、活動の目的をもたせ意欲的に取り組むことができるようにする。

さらに、小学校や自分自身の課題から、それぞれの SDGs の目標を設定する。学級の SDGs の目標を設定した時と同じ学習過程や活動を行っていくことで、これまでの経験から、より課題に沿った SDGs の目標を設定することができ、表現物の作成や発表に向けての準備など、スムーズに取り組むことができるようにする。最後に、自分の課題から SDGs を設定する際に、誰もが見ることができる場所に掲示することを意識させることで、継続して取り組むことができる目標設定をさせる。また、これからの自己の生き方を考えることができるように、振り返りを記入する学習プリントを準備しておく。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…よりよくなるために改善したい様々な課題をもとに、17ある SDGs の目標から適切な目標を設定することができる。

連携性…自分たちが設定した SDGs の目標を達成するために、一人一人が意識して友だちと協力して取り組むことができる。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング

様々な課題から、学校や学級、自分をよりよくするために改善したいことを、話し合いながら決定する。また、話し合っただけの課題をもとに、17ある SDGs の目標の中から適切なものを話し合っただけで決定する。

コミュニケーション力

相手の話を考えながら聞いたり自分の考えをはっきり伝えたりしながら、互いの考えの相違を受け入れ、改善したい課題や SDGs の目標を設定する。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正と世代間の公正

学校、学級などの課題をもとに、設定した SDGs の目標やターゲットを自分一人で達成するのは難しい。学校においては1年生から4年生、6年生、学級においてはクラスメイトに、それぞれ設定した SDGs の目標やターゲットを、対象の人に周知したり理解したりしてもらうことで目標達成が可能になると考える。

互いの人権・文化を尊重する

SDGs の目標を設定するにあたって、学校や学級の課題を理解することが必要だ。しかし、課題と感じることは児童一人ひとりで違うこともある。交流活動において、自分の考えをしっかりと主張することは大切だが、お互いの考えを理解し認め合うことで、自分の考えを深めたり、新たな知識

を獲得したりすることができ、その結果、よりよいSDGsの目標を設定することができると思う。

・達成が期待されるSDGs

- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① SDGsについて理解し、説明することができる。	① 交流活動を通して、自分の考えを深め、広げることができる。	① 自分が設定したSDGsの目標を意識して行動することができる。
② 学校や学級、自分自身の課題をもとに、SDGsの目標を設定することができる。	② 考えたSDGsの目標やターゲットを、説明することができる。	② 学んだSDGsを、周りの人に広めようとする。

5. 単元の指導計画（全39時間）

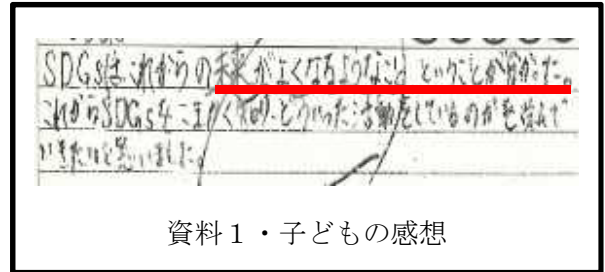
次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ SDGsについて調べ、分かりやすく発表する。 ・ SDGsについて知る。 ・ 福岡市のSDGsについて知る。 ・ 学習課題を設定する。 ・ SDGsの目標について調べる。 ・ 調べたSDGsを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsに興味をもたせるため、CMなどの映像を見せる。また、一般企業でもSDGsに取り組んでいることに気付かせる。 ・ 区役所の方をGTとして招聘し、福岡市の取り組んでいるSDGsについて話してもらうことで、身近なところでもSDGsに取り組んでいる人がいることに気付かせるとともに興味をもたせる。 ・ SDGsが調べやすいように、目標ごとに資料やHP名を準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> △イ①② （思判表） △ア① （知・技） △ウ② （主体的）
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい6年生になるための「5-1SDGs」を作る。 ・ 学級について話し合う。 ・ GT（学級担任）から話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsの目標を設定するために、学級の課題を明確にする話し合いの場をつくる。 ・ 学級担任や関わりのある教師を 	

	<ul style="list-style-type: none"> 学級の SDGs の目標を決める。 グループごとに目標のターゲットを考える。 考えた目標のターゲットを発表する。 	<p>GT として招聘することで、学級の課題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標のターゲットを考えやすくするために、学級の課題について、どういうところを改善していきたいのか具体的に話す話し合いをしたりアンケートをしたりする。 難しい言葉は使わず、自分たちがイメージしやすい言葉を使うよう指導する。 	<p>△ア② (知・技)</p> <p>△イ①② (思判表)</p> <p>△ウ①② (主体的)</p>
3	<p>○ よりよい学校にするための「福浜小 SDGs」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校について話し合う。 GT (校長) から話を聞く。 学校の SDGs の目標を決める。 グループごとに目標のターゲットを考える。 考えた目標のターゲットを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs の目標を設定するために、学校の課題を明確にする話し合いの場をつくる。 学校長を GT として招聘することで、学校の課題を明確にする。 目標のターゲットを考えやすくするために、学校の課題について、どういうところを改善していきたいのか具体的に話す話し合いをしたりアンケートをしたりする。 難しい言葉は使わず、1年生も理解できる言葉を使うよう助言する。 	<p>△ア② (知・技)</p> <p>△イ①② (思判表)</p> <p>△ウ①② (主体的)</p>
4	<p>○ よりよい6年生になるための「My SDGs」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身について考える 自分の SDGs の目標やターゲットを考える。 表現物を作成し掲示する。 <p>・ これからの自分自身に生き方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分について振り返ること場を設定し、SDGs の目標を決めやすくする。 表現物を作成するときは、見やすく分かりやすいように、キーワードで表現するよう助言する。 自分が決めた SDGs をもとに、今後の自分の行動や発言について考える場を設定し、取り組む意欲を高める。 	<p>△ア① (知・技)</p> <p>△ウ① (主体的)</p>

6. 指導の実際

〈 1 次 〉

- 最初に、SDGsに興味や関心をもつことができるよう、子ども達の知っている企業のCMやYouTube、学校から配布される広告などを見せ、SDGsの活動が身近なところで行われていることに気付かせるようにした。また、福岡市もSDGsの目標を掲げ取り組みをしていることを知らせ、どんな活動をしているのか詳しく知るために、福岡市役所の方をGTとして招聘した。子ども達は興味をもって聞く姿が見られ「SDGsは、これからの未来が良くなるようなこと。」「10年後のことを考えてみて、未来について考えてみるのもいいかな。」など、前向きな感想が聞かれた（資料1）。



資料1・子どもの感想

その後、「SDGsについて詳しく調べ、クラスみんなに伝えよう」という学習課題を設定し、17のグループに分かれ、それぞれのSDGsの目標について調べていった。グループに分ける際は、活動意欲を高めるために、どの目標について調べたいのか希望をとり、その希望をもとにグループ分けを行った。調べる活動では、活動意欲や興味・関心を高めるため、目標ごとに参考になる資料やHP名を準備し、簡単に調べたりまとめたりすることができるようにした。調べたことは、表現物にまとめ、発表の場を設定した。発表の際は、「1分30秒以内」「分かりやすい説明」の条件を付けた。そのことで、どんな言葉を使って発表すればいいのか、また、短い時間内で何を説明すればいいのかということに発表の視点を置くことができ、グループ内で話し合いながら進める姿を見ることができた。発表の際は、再度、GT（福岡市役所の方）に来ていただき、調べた成果を見もらった。

〈 2 次 〉

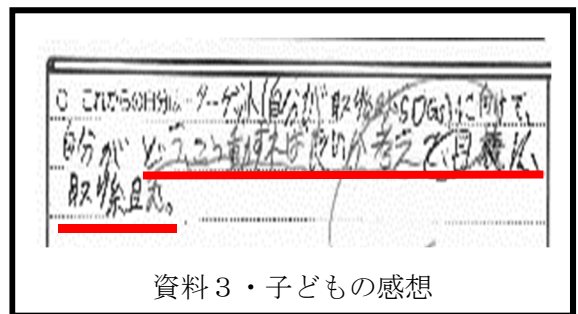
- 福岡市役所の方に、「5年1組のSDGsについて考えてみよう」という提案をしてもらい、学習課題②「よりよい6年生になるために5年1組SDGsをつくろう」を設定した。

最初に、課題を明確にするために、学級についての振り返りを行った。良さや課題について「授業中のおしゃべりが多い」「ケンカをする」など様々な意見がでた。そこで、本学級に一番詳しい学級担任をGTとして招聘し、本学級の良さや課題について話してもらった（資料2）。



資料2・GT（学級担任）

ここでは学級担任としての思いも伝えてもらった。学級についての話し合いやGTの話をもとに、3番、5番、10番、12番、16番の目標を5年1組SDGsとし、それぞれの目標のターゲットを考えていった。その後、表現物にまとめ、再度、学級担任をGTとして招聘し、発表を行った。「自分が取り組むSDGsを少しずつ達成していきたい。」「自分がどう行動すればいいのか考えて目標に取り組む」など（資料3）、5年1組SDGsの取り組みに前向きな感想が多く見られた。



資料3・子どもの感想

〈 3 次 〉

- 5年1組SDGsを設定した後、同様に「福浜小SDGs」を作成した。学習課題③を「よりよい福浜小

にするためのSDGsについて考え、『福浜小SDGs』をつくろう」とした。学校長をGTに招聘し、良さと課題、校長としての思いを話してもらった(資料4)。それをもとに、3番、5番、6番、10番、12番、14番、15番、16番の8つを目標と設定し、1年生から6年生までが取り組めるターゲットを考えた。考えたターゲットは、表現物にまとめ発表し、学校の廊下にしばらく掲示した。



資料4 GT(校長先生)の話

〈 4 次 〉

最後に、よりよい6年生になるために「My SDGs」を考えた。学級や学校のSDGsを考えると同時に、まず、自分を振り返り、良さや課題を明確にし、SDGsの目標を設定した。設定したSDGsの目標のターゲットを考え、表現物を作成し(資料5)、よりよい6年生になるために達成するSDGsの目標とターゲットを、クラスの友達の前で宣言させた。表現物は、誰もがみることができる掲示板に掲示し、いつでも自分や友達の目標やターゲットを確認したり振り返ったりすることができるようにした。



資料5・My SDGs(表現)

7. 成果と課題

【成果】

- ① 総合的な学習の時間の目標から
 - 最初にSDGsについて学習するために、GTを招聘したり、自分たちで調べながら詳しく学習していったりしたことで、SDGsにとっても興味をもち、意欲的に学習にも取り組む子どもの姿が見られた。
 - 自分たちでSDGsの目標や決めターゲットを考えたことで、決めた目標やターゲットを意識して学校生活を送る姿が見られた。
- ② ESDの視点から
 - 主に養いたいESDの視点(見方・考え方)の連携性では、目標を調べたりターゲットを話し合いながら考えたりする活動を通して、お互い声を掛け合いながら表現物を作成したりアイデアを出したりする姿が多く見られるようになった。
 - 主に育てたいESDの資質・能力の「コミュニケーション力」では、国語科の「話す・聞く」の学習と関連づけて、立場によって聞き方が変わることを意識させたため、スムーズに話し合い活動を行うことができるようになった。また、学習を進め、何度も話し合い活動を仕組んでいくと、お互いの考えを尊重したり受け入れたりする姿も徐々に増えてきた。

【課題】

- ① 総合的な学習の時間の目標から
 - 実施時期が遅かったこともあり、自分のSDGsを作成したものの、取り組む期間が短くなってしまい、その後の振り返りも十分行うことができなかった。
- ② ESDの視点から
 - 変容を促すESDの価値観の「世代内の公正と世代間の公正」において、学校のSDGsを作成したものの、周知がうまくいかず他学年への広がり不十分だった。また、地域のSDGsも作りたいという意欲があったが実現することができなかった。